地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例

Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample

of the Journal of Social Safety Science

地域 太郎1，安全 花子2

Taro CHIIKI1 and Hanako ANZEN2

1 地域安全大学 情報工学科

Department of Information Technology, Chiiki Anzen University

2 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部

Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Journal of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

***Keywords:*** *three to six words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line, Times New Roman, italic, 9 point font*

１．はじめに

　この「地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例」は，参考文献1)を参考に，「地域安全学会論文集」の原稿作成の指針を示したものです．

　この電子ファイルは，地域安全学会論文集の原稿（和文）を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述したテンプレートです．原稿そのものの体裁 (A4) をとっているため，このファイルの中の文章をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば，所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます．原稿作成にあたっては，必ずこのテンプレートを使用してください．フォーマットの細部が変更される場合がありますので，過去に投稿した原稿を再利用することはお控えください．フォーマットが守られていない原稿については，学術委員会において形式審査により不受理とする場合があります．

２．用紙と基本構成

　原稿は，A４判で，次の順に作成して下さい．

・題目（和文および英文）

・アブストラクト（英文）

・キーワード（英文）

・本文（和文または英文）

・補注（必要な場合)

・謝辞（必要な場合)

・参考文献

３. オンライン投稿

地域安全学会ホームページ（www.isss.info）の「オンライン論文投稿・査読システム」リンクを通じて，論文投稿を行って下さい．

４．レイアウト等

　レイアウトは，本要領に従って下さい．ただし，使用するソフトウェアやプリンターの違いによって，文字の大きさや字体, レイアウトの寸法などに若干の差異が生じても構いません．しかし，1ぺ一ジ当りの字数に大幅な増減がある場合には，レイアウトの修正をお願いすることがあります．

(1) マージン等

* 上：19mm，下：24mm，左右：各20mm

　（ただし、１ページ目のみ上下：20mm）

　・二段組み本文の段組間隔は8mm

(2) フォント等

　フォントは、原則として，以下の通りとします．

　・題目：和文はゴチック14pt，中央揃え，左右各30mmのマージン．

　　　　　英文はTimes New Roman 12pt，中央揃え，左右各30mmのマージン．

　・著者名：和文は明朝12pt，中央揃え，左右各30mmのマージン．

　　　　　　英文はTimes New Roman 12pt，中央揃え，左右各30mmのマージン．

　・著者所属：和文は明朝9pt,左揃え30mmのマージン．

　　　　　　　英文はTimes New Roman 9pt，左揃え30mmのマージン．

　・アブストラクト：英文Times New Roman 9pt，左揃え，左右各30mmのマージン．

　・キーワード：Times New Roman, italic, 9pt, 3－6語，２行以内，左右各30mmのマージン．  
“***Keywords***” は一語でボールドイタリック体．

　・本文：明朝9pt，行替えの場合は1字下げ．

　　　　－章の見出し：ゴチック10pt，左寄せ

　　　　－節，項の見出し：ゴチック9pt，左寄せ

　　　　－図, 表, 写真のキャプション：ゴチック9pt，中央揃え

　・補注，参考文献の指示：明朝9ptの右肩上付き1/4角を原則としますが，各学問分野の慣例に従っても構いません．

　・補注(必要な場合)：“補注”はゴチック10pt，左寄せ，補注自体は，明朝8pt．

　・参考文献：“参考文献”はゴチック10pt，左寄せ．参考文献自体は，明朝8pt．

(3) 行数および字数

a) アブストラクト

　7行以内として下さい．

b) 本文

　二段組みとし，一段当りの幅は81mm, 1行当り25字，行間隔は4.0mmとし，1ぺ一ジ当り60行を標準として下さい．したがって，文章のみのぺ一ジでは1ぺ一ジ当り3,000字が標準的な字数となります．

(4) 総ぺ一ジ数

　題目から参考文献までを含めて，最低6ぺ一ジ，最大10ぺ一ジとして下さい．なお，査読者による指摘事項を踏まえて加筆・修正することを念頭に置き，最終原稿が10ページを超えないように査読用原稿を執筆することをお勧めします．

　参考文献リストのあとに１行空けて，電子申込・投稿した日を投稿受付年月日として，右詰めで書いて下さい． 登載が決定した場合には，最終原稿に登載が決定した日付を登載決定年月日として，投稿受付年月日の下に記載してください．

５．文章および章，節，項

(1) 文章の書き方

　文章は口語体によって，とくにカタカナ書きや英文を必要とする部分以外は，漢字まじり平仮名書きとして下さい．私的な表現，広告・宣伝，特定の個人・組織を誹謗する表現は避けて下さい．

(2) 章, 節, 項のタイトルの書き方

　章, 節, 項の見出し記号と前後の行空け等は，以下の通りとして下さい．

　・章：“１… ９．”，前2行空き，後ろ１行空き．

　・節：“(1) … (9) ”，前1行空き，後ろ行空き無し．

　・項：“a) …… z)”，前後行空き無し．

６．式，記号および単位系

(1) 記号等の用い方

　式や図に使う文字，記号，単位記号等はできる限り常識的な記号等を用い，必要に応じて記号等の一覧を付けて下さい．

(2) 数式

　数式は，式の展開や誘導部分を少なくしてできるだけ簡潔にまとめ，必要に応じて本文中で説明して下さい．また，数式には，式の番号を“[1] …… [9]”とし，右寄せで付けて下さい．

(3) 単位系

単位は，原則として国際単位系：SI(1)を用いて下さい．

７．図，表，写真

(1) 図, 表, 写真の体裁

　CD-ROM版論文集には，電子投稿されたPDFファイルが収録されますので，カラー版に関する制限はありません．電子出版の利点を活かしてカラー版を使用して下さい．ただし，冊子体論文集は白黒印刷となりますので，白黒印刷の完全版下原稿を別途作成していただきます．

(2) 図，表，写真中の文字，キャプション等

　図，表，写真は，最後にまとめて配置するのではなく，関連のある文章の近くに配置して下さい．

図，表，写真中文字やキャプション等は，本文と同じ言語を用いて下さい．

　図，表，写真には，図1，図2のようにそれぞれ一連番号を付けて下さい．



図1　図（写真）のキャプションは図の下に置く

表1　表のキャプションは表の上に置く．キャプションが長いときは，インデントして折り返す．

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 資料番号 | 高さ*h*(m) | 幅 *w*(m) |
| 1 | 2.45 | 1.25 |
| 2 | 2.75 | 1.40 |
| 3 | 2.90 | 1.65 |

長いキャプションは表1のようにインデントして折り返して下さい．

　表のキャプションは上に，図および写真のキャプションは下に付けて下さい．

(3) 図, 表, 写真と文章との関係

　図，表，写真をぺ一ジの一番上または一番下に配置する場合以外，上下1行ずつ空けて下さい．図，表，写真は一段のみ，二段抜きのいずれでも構いませんが，図，表，写真の左右には本文を組み込まないで下さい．

図，表，写真は，本文と同じ方向で組み込むことを原則とします．ただし，1ぺ一ジ全体を1つの図，表，写真とする場合は，本文の方向から90°回転することができます．

(4) 図，表，写真の引用について

　図，表，写真を他の著作物から引用する場合には，出典を必ず明記し，著作権法に抵触しないよう，著者の責任において原著者等の了解を得て下さい．

８．補注について

　本文中の脚注や注はできるだけ避け，本文中で説明するか補注として本文末尾において下さい．ただし，それぞれの学問分野の慣例に従っても構いません．

　補注とする場合は，順番に“(1) …… (9)”の番号を付け，明朝9ptの上付きで示して下さい．

９．参考文献について

　参考もしくは引用した文献は，順番に“1) …… 9)”の番号を付け，本文中では明朝9ptの上付きで引用して下さい．末尾の“参考文献”の記述内容は，全ての著者，論文名，雑誌名または書名，巻号，ぺ一ジ，発行所，発行年の順に記載して下さい．著者が3名以上の場合に限り，第1著者のみを記載しあとを“他”または“et al.”としても構いません．

　原稿受付の段階で登載が決定していない論文は引用できません．公表されていない論文については，査読に際して提出いただく場合もあります．

１０．版権と著者の責任

　「地域安全学会論文集」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し，原稿の内容については著者が責任を持つことになります．したがって，印刷後発見された誤植や内容の変更はできません．誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は，学術委員会の了承を得た上で，著者の責任において，文書で，当該論文が登載されている「地域安全学会論文集」所有者に周知して下さい．

１１．修正原稿および印刷用最終原稿の提出

学術委員会による一次審査を通過した論文については，「修正原稿」および「修正事項に対する回答書」を提出していただきます．

修正原稿では，修正箇所を必ず赤字で示し，どのように修正がなされたのか，わかるようにしてください．このような修正方法が適切でないために不採用と判断される場合があります．指摘事項以外の修正は認められません（誤字脱字の修正などの軽微なものを除く）．

学術委員会による最終審査を通過した論文については，最終原稿ファイル（WordファイルとPDFファイル）を提出していただきます．その際に，軽微な修正を指示することがあります．

１２．その他

(1)原稿受付年月日

　学術委員会により原稿が受理された日付を原稿受付年月日とします．日付については，最終原稿ファイルの作成依頼時にお知らせします．

(2) 登載決定年月日

　登載が決定した日付を登載決定年月日とします．日付については，最終原稿ファイルの作成依頼時にお知らせします．

(3) 登載決定

　査読を経た原稿が，本「査読論文執筆要領」に合致していると学術委員会が認めた時点で，登載決定を事務局より通知します．

(4) 査読者等の公表

　個々の論文についての査読者名および査読内容は公表しません．論文集には，当該年度の査読者の一覧を掲載します．

(5) 英文論文への適用

　本文を英文とする論文の執筆要領は，本文が和文であることを前提として作成した本「査読論文執筆要領」に準拠して下さい．しかし，英文の場合は，和文のタイトル，著者名，所属は不要です．

　本文のフォントは，Times New Roman 9ptを基本として使用して下さい．

補 注

(1) 国際単位系

　SIは，1960年の国際度量衝総会で採択され，メートル法の単位をもとに，現代の科学技術および一般の社会活動の諸分野で共通に使用できるよう編成された実用的な単位系で，以下のような長さ，質量，時間，電流，温度，物質量，光度の基本単位があります．

長さ：メートル(m) 　　質量：キログラム(㎏)

　　物質量：モル(ｍo1) 　　時間：秒(s)

光度：カンデラ(cd) 　　電流：アンペア(A)

　また，10の整数乗倍の単位を作るために以下のようなSI接頭語が定められています．

1024：ヨタ(Y) 10３：キロ(k) 10-9：ナノ(n)

1021：ゼタ(Z) 10２：ヘクト(h) 10-12：ピコ(p)

1018：エクサ(E) 10１：デカ(da) 10-15：フェムト(f)

1015：ぺタ(P) 10-1：デシ(d) 10-18：アト(a)

1012：テラ(T) 10-2：センチ(c) 10-21：ゼブト(z)

10９：ギガ(G) 10-3：ミリ(ｍ) 10-24：ヨクト(y)

10６：メガ(M) 10-6：マイクロ(μ)

謝辞

謝辞は参考文献の直前に記して下さい．

参考文献

1) 土木学会論文編集委員会：土木学会論文集投稿の手引, 論文集編集委員会関連資料, 土木学会, pp.8-22, 1998.

2) Kanamori, H., Aki, K. and Heaton, T.: Real-time seismology and earthquake hazard mitigation, Nature, Vol. 390, pp. 461-464, 1997.

(原稿受付　20YY.MM.DD)

(登載決定　20YY.MM.DD)